

第7回 中国残留日本人への理解を深める集い

# 「中国残留日本人の歴史を辿る」

と き：2021年11月20日（土）午後1時～4時半

ところ：尼崎市立中央北生涯学習プラザ 1階大ホール

入場無料（予約不要）会場内は三密を避けて席を配置します  
マスクをご持参ください

## 第1部

ドキュメンタリー（信越放送制作）

### 「決壊～祖父が見た満州の夢～」

戦争中、長野県の河野村で村長を務めた胡桃澤盛は、国策に従い、村人を満蒙開拓団として満州国へ送り出した。しかし、ソ連軍の侵攻で戦場と化した満州で、73人が集団自決。後に、盛は、罪の意識に苛（さいな）まれ、42歳で自ら命を絶った。（裏面に続く）



信越放送 HP より

## 第2部

講演：胡桃澤伸

### 「河野村開拓団と祖父と私」

## 第3部

対談交流：胡桃澤伸氏と大兵庫開拓団2世の皆さん

◎ 写真と資料で辿る「満州・移民」 撮影・編集構成 宗景正

1階ロビー 期間：11月17日（水）～20日（土）

午前9時～午後8時、20日は午後5時まで

主催：尼崎市（委託事業団体：コスモスの会尼崎日本語教室）

後援：尼崎市教育委員会

協賛：近畿中国帰国者支援・交流センター

大阪中国帰国者センター

問合せ先：コスモスの会 石打謹也（090—7489—7091）

HP:<http://kosumosunokai.sakura.ne.jp/kosumosu.html>

## 映画のあらすじ

孫の胡桃澤伸（51）は、大勢の村人を死に追いやった祖父、自責の念に苦しみ自殺した祖父のことを、どう受け止めていいかわからずにいた。手がかりになるのは、10代の終わりから死の直前まで書いていた日記。青春時代は大正デモクラシーに触れ、自由主義に理想を求め、30代半ばで村長となり村のために奔走する日々の心情が、生々しく綴られている。家族のため、村のため、社会のために生きたい、常に正しくありたいと願っていた祖父は、気がつけば国のため、戦争遂行のために邁進していた。

2017年の夏、日記を頼りに、祖父が一度だけ赴（おもむ）いた中国を訪ね、足跡を辿（たど）った。開拓団が入植した村では、当時を知る長老から話を聞くことができた。集団自決の地を訪ね、73人の名前を読み上げ、送り火を焚き、手を合わせた。戦後、悼（いた）む人もなく置き去りにされてきた人々に語りかける。祖父の代わりにはなれない自分が、今、慰霊する意味を見つめた。

国民の命をないがしろにした国の政策、個人を犠牲にしてまでも国全体の利益や一体感を優先させる思想、そこに与（くみ）した祖父。戦後、その過ちと向き合おうとしたときの、苦しみの深さを思う。残された日記は、戦争を知らない自分たちに大切なことを伝えようとしていた。

## プロフィール

### 胡桃澤伸（くるみざわしん）

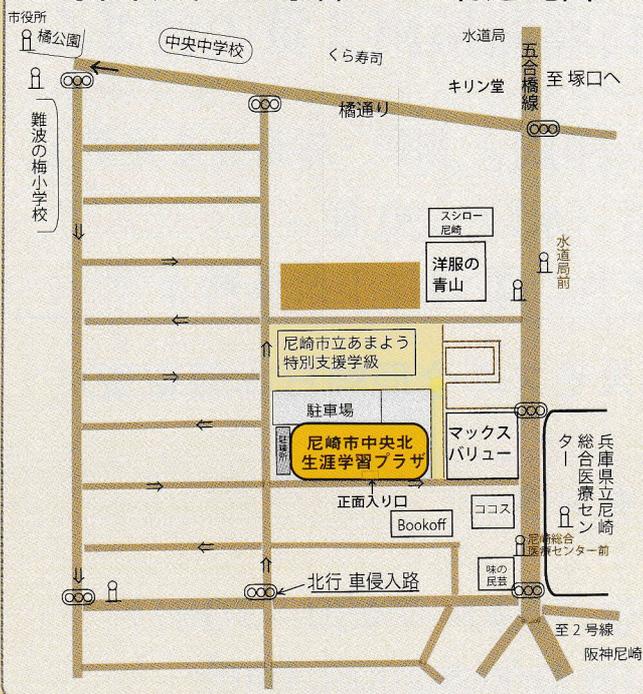
胡桃澤伸（くるみざわしん）

1966年長野県生まれ。東大阪市在住。精神科医、劇作家。2005年頃から十数年間、尼崎市内のクリニックに勤務。

祖父の胡桃澤盛は河野村の村長として、植民地満州に村民を送り、分村を作った。その結末とその後を記録したドキュメンタリー『決壊 ～祖父が見た満州の夢～』が2018年に全国放送された。番組を手掛けた手塚孝典ディレクターの近書「幻の村―哀史・満蒙開拓」（早稲田新書）には、河野村開拓団の生滅が詳しく書かれている。



### 尼崎市中央北生涯学習プラザ 付近 地図



### 〈会場へのアクセス〉

#### 尼崎市立中央北生涯学習プラザ

尼崎市東難波町2-14-1 (06-6482-1750)

- JR神戸線立花駅（上）から阪神バス15番「阪神尼崎」行「中央公民館」下車。徒歩5分
- JR神戸線立花駅（上）から阪神バス43番-2「阪神尼崎」行
- 阪神電車「尼崎」駅から阪神バス13番「阪急塚口」行
- 阪急神戸線「塚口」駅から阪神バス13番「阪神尼崎」行にそれぞれ乗車、「尼崎総合医療センター」下車。徒歩約3分。